

とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.110

2016
Summer

【巻頭特集】

新たな命吹き込み、人つなぐ
循環生み出すリノベーション

【特集】

弦楽器の調べで潤うまちへ
聖地目指す「三朝バイオリン美術館」



▶オオルリ◀

全長16.5cm。雄は頭から背が鮮やかなブルーの背中、白い腹。さえずりは「ピールーリー ポピーリ ピピ ジジッ」と、高く澄んで美しく、全国的に人気が高い夏鳥。雌は全体がオリーブ褐色で見つけにくい。低山から山地にかけて生息し、渓谷に沿った林を好む。

参考文献*『ととりの野鳥』（2003年5月、鳥取県発行）
写真提供*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 桐原 佳介

とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.110
2016 Summer



写真提供:鳥取市

文／角秋 勝治 撮影／山崎 登



品格と温もり宿る美しさ 木工芸 福田 豊

とにかく「木が好き」。樺・栗・榎・桜材などに塗り重ねた拭き漆の技法で、「触覚は冬でも温かい」と語る福田豊さん。父子代々の木の匠は、愛好家にも信頼が厚い。「木の寿命は長く、修理も効く」と断言。「売れば終わり」という一過性ではない。

鳥取の木工芸は、昭和初期から全国で高く評価された。民芸運動の創始者・柳宗悦から薫陶を受けた吉田璋也（※）、父の福田祥さんらと継がれ、豊さんは伝統を守る数少ない指物師の一人。木の切れ端も大切に、虫食いも面白ければ相応に使う「最強のエコロジスト」だ。

『伸縮型電気スタンド』は上下に10センチほど伸縮自在。作家の志賀直哉、里見弴らとの交流で、執筆情況に対応して考案されたという。小津安二郎監督の映画にも登場した。ひょうたん型の風格ある支柱に、九角や丸形の傘が乗り、地元の因州和紙を透した灯りに心が和む。

『椅子』は疲れず、姿勢を保ちやすい。モットーは、使う人の身になって「用」に徹底。加飾を避けた、シンプルな形だ。丸味のある作りは、子どもが角にぶつかっても怪我をしにくい。そこにある優しさと温かさ。優れたスポーツ選手のように、無駄のない機能美と品格が宿る。

※吉田璋也＝1898—1972。鳥取市の民芸運動家、医師。学生時代から柳宗悦に師事、陶工や作家たちと幅広い交流をしながら、山陰の新作民芸運動に生涯を捧げた。



「伸縮型電気スタンド（九角面取）」
（樺・栗材 高さ52×62cm 径32cm）



「椅子」樺材 高さ94×幅60×奥行50cm

ふくだ・ゆたか

1949年、鳥取市生まれ。吉田璋也に民芸の指導を受けた父・祥さんの元で修業。先人の築いた木工芸の形を忠実に守り、伝統の精神「用」に徹して「福田木工」の制作を続ける。2004年、鳥取県伝統工芸士認定。同年、林野庁「森のめぐみ名手・名人100人」に認定される。



あーとの森

木工芸 福田 豊

巻頭特集

新たな命吹き込み、人つなぐ
循環生み出すリノベーション

郷土LOVEの紙芝居師
ヒロ画伯の絵日記帳 神話残る弓ヶ浜半島

人間この人 Human Life 株式会社 A L E 代表取締役社長 岡島 礼奈

古今時代屋 ここにあるカタチ 林そば屋

特集

弦楽器の調べで潤うまちへ
聖地目指す「三朝バイオリン美術館」

良い酔いはしごと酒 とっとり酒蔵めぐり 中井酒造

鳥取のうま味 医食同源料理

VIVALDI'S LIFE ライダーハウス運営（日南町）
輝くJUTAN者たち

企業紹介 有限会社 米村木工

Voice 縁すまいる 姫路鳥取県人会

読者プレゼント・編集後記

32 31 30 28 27 26 20 18 15 14 4 2

●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。この春、米子市から大山町に引っ越した。草原にボツンと建つ小さな家。時折、イノシシやシカの来客。があり、米子とは違う賑やかさに日々、ワクワクしている。



※カメラアイは休みます。



写真提供：齊藤浩文



©Shiho Oshita



写真提供：鳥取市



新たな命吹き込み、 人つなぐ 循環生み出すリノベーション

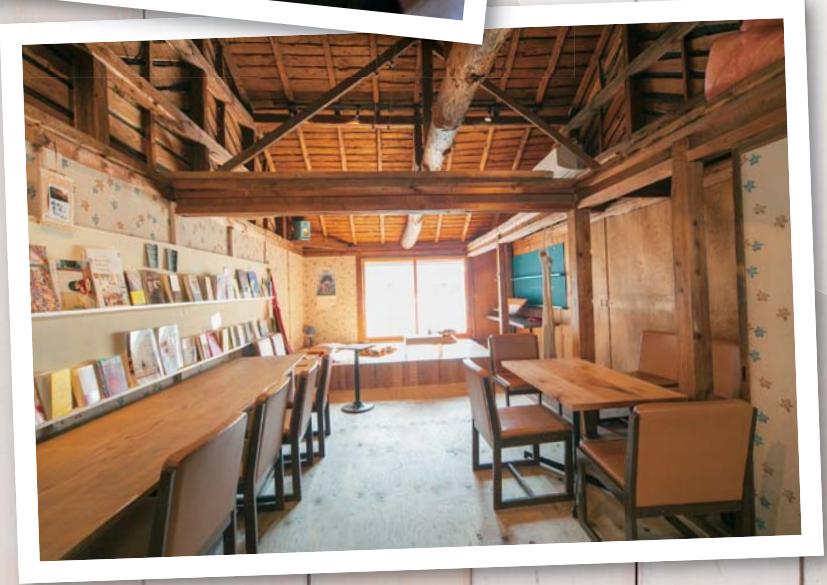
使われなくなった古いビルの一室、人の出入りが途絶えた古民家、廃校になってしまった小学校……。固く扉を閉じた建物たちに、もう一度命を吹き込む方法として、注目される「リノベーション」。単なる改修ではなく豊かな価値を創造する、新しい物件再生のスタイルだ。そこでは予想外の循環の渦が巻き起こり、世代を超えた人々のつながりが生まれている。



写真提供：鳥取市



©Shiho Oshita



それは一人の公務員の行動から始まった。鳥取県の建築技師である林拓磨さんは、ひょんなことから「リノベーション」に興味を抱く。「リノベーション」とは、老朽化したり使われなくなった建物を元の状態に直すことではなく、その場所の使い方を問い直し、再構築する行為という。

2012年11月、林さんはリノベーションによる物件再生の第一人者として知られる大島芳彦さんの講演をきっかけに、「リノベーションスクール（以下…RS）」という取り

「RSによってまちの温度が上がり、それをきっかけに大きなうねりが生まれている気がします」と林さん



主催者として関わった谷口さん。「仕事としての参加でしたが、RSの魅力に引き込まれました」

魔法にかかる熱き3日間

「第1回RS@鳥取」の最終日、サブユニットマスターを務めた本間さん、高藤さん、山根さんは、「鳥取家守舎」（※）の結成を宣言。東京からUターンした不動産業の池上紗織さんも加わり、それぞれの本業の傍ら4人で活動を開始した。

リノベ途中に飲食物を持ち寄って意見交換する「空き家bar」やワークショップ（以下WS）を通じて、市場に出回らない遊休不動産とその担い手とのマッチングなど、これまでの枠組みでは動かせなかった遊休不動産の活用機会をつくり出すという。

例えば「R鳥取駅前」にある3階建のビルでは、長年遊休化していた1室を賃貸住宅「ミドリビ」にリノベーション。緑をテーマカラーに、木をふんだんに使用した居心地のいい空間に生まれ変わった。

単に設計・改修するだけでなく、オーナーのリスクを軽減するため、改修着手する前に入居候補者を探し

組みを核としたまちづくり手法を知る。その仕組みに強く共感し、鳥取でのRS開催に向けて走り始めた。

RSとは、実在する遊休不動産を題材に、その活用方法や資産計画を3日間で考え、最終日に不動産オーナーに向けて、プレゼンテーションするというもの。アイデアコンペでは無く、あくまでも実事業化を目指すため、オーナーが納得し、実践するメンバーがそろえば提案は実行に移される。

受講生は物件ごとに「ユニット」と呼ばれるグループに分かれ、再生



RS最終日のプレゼンテーション。メンバーが意見を出し合い必死で練り上げた最終案を発表する(写真提供:鳥取市)

事業計画、企画立案、収支計画などを学び、考え、案をどんどんブラッシュアップしていく。自分たちのまちをとことん本気で考えて知恵を絞った提案に、不動産オーナーは心揺さぶられ、受講生らは最終日に感極まって涙するという。「関わる全ての人が、熱気を帯びるんです」と林さん。

とはいえ、県内ではRSの事例はなく、開催までの道のりは険しかった。しかし、家具製作等を手がける本間公さん、建築事務所の高藤宏夫さん、不動産業を営む山根卓也さんから良き理解者との出会いもあり、14年11月、鳥取市が主催者となり、よ

一体どうなっちゃったんだよ！」と嬉しい悲鳴を上げたとか。

リノベーションの不思議な作用を受けて力を蓄えた鳥取のまち。この卵の殻がもうすぐパリンと割れて、新しい顔が飛び出してくるような、そんな気がした。

古くて新しい「家守」も誕生



谷口さん、林さんと、まちを動かすため発足した鳥取家守舎のメンバー。(中央左から本間さん、池上さん、高藤さん)。池上さんは「東京にいたとき、インターネットでこの動きを知り、参加したくて帰ってきました」

※ 鳥取家守舎＝家守は江戸時代に存在したといわれる長屋の管理人。長屋や地域に根ざした独自のビジネスを成立させていた。鳥取家守舎は現代版家守の役割を担う。

☎ 鳥取家守舎
〒850-0021 鳥取市今町2丁目201
トウビル301号
☎ 090-4140-1990
🌐 <https://www.facebook.com/tottoriyamori/>

うやく「第1回RS@鳥取」が開催できることになった。翌年7月には第2回を開き、回を追うごとに関心は高まり、既に第3回も今年11月に予定されている。

「二歩を踏み出す気概を持つ多くの方に会えました。3日間とその後活動で、まちも人もどんどん変化したんですよ」と林さん。当時、主催者として運営に奔走した鳥取市の谷口智章さんも変化した一人だ。「多くの人たちが繋がりが出来たのは、大きな財産。部署を異動したとしても関わり続けたいと思った」という。

RSは、鳥取のまちと人に魔法をかけている。



候補の物件に実際に出向いてイメージを具体化する現地調査(写真提供:鳥取市)



◎鳥取大丸屋上庭園プロジェクト
「まるにわ~maruniwa~」◎



代表の齋藤さんほか、プロジェクトメンバーの谷口俊博さん、田中裕太さん(左から)。ベンチはWSで作ったもの

◎ 鳥取大丸屋上庭園プロジェクト
「まるにわ~maruniwa~」
WEB <http://maruniwa.jimdo.com>
FB <https://www.facebook.com/Tottori.Daimaru.maruniwa>

市民の憩いと賑わいの場に

百貨店の鳥取大丸の屋上は、かつて子ども向け遊具が設置されたミニ遊園地になっており、買い物に訪れたファミリー層に人気のスポットだった。しかし時の流れとともにその姿は変わり、今は夏場のビアガーデン以外に一般客が足を踏み入れることはない。この場所を市民が憩える屋上庭園にしようと立ち上がったのが、鳥取大丸屋上庭園プロジェクト「まるにわ~maruniwa~」(以下…まるにわ)だ。

では、鳥取大丸の顧客年齢層が上がっている中、どうやって若い世代を呼び込むかがポイントでした。ウエディング、屋台村、マルシェなどさまざまなアイデアが交錯する中、「僕は仕事の昼休みにここでおいぎりを食べてるよ」という齋藤さんの言葉から、緑の芝生の上でゆったり寛げるような「屋上庭園」の発想が生まれた。

プランを軸に15年8月に任意団体を設立、10月には早速床みがきや木製ベンチづくりのWS、バーベキューなどのイベントを実施、開放されているという市民への周知と、今年初夏の芝張りを目指した準備を進めた。総面積約1018平方メートルのうち約250平方メートルに芝を敷く予定で、資金集めにはクラウドファンディング(※)を活用する。「屋上庭園でイベントをやりたいという人に貸し出すなど収益事業も考案中」と、行員らしく収支計画も見通す。

今年2月からは月2回オープンミーティングを開いている。初めての人も参加OKで、「最近、まるにわの話題をよく耳にするから」と、いろんな人が来てくれます」と反響を喜ぶ。「RS事業を起点に、今まちに動きが出ています。でもまだまだ足りない。まるにわを通してこれまでリノベーションとは縁がなかった人とも手をつなぎ、もっと、おもしろいまち~にしていきたい」。

昔のように人で賑わい子どもたちから歓声上がる、そんな屋上の姿を見られる日が今から待ち遠しい。

※ クラウドファンディング=ある目的を持った人や団体に対する資金をインターネットを通じて多数の支援者から調達し実現する手法。

「次々とやりたい企画が沸いてくるんです」と
生き生きと語る岡田さん



2015年5月23日、JR鳥取駅から程近い鳥取市中心街に「Book Cafe ホンバコ」(以下…ホンバコ)がオープンした。06年まで営業していた喫茶店をリノベーションし、「本で人と街がつながるきっかけを」をコンセプトに展開している。

店内には、その名の通り木づくりの本箱が幾つも積み上げられている。並ぶ本は、ホンバコの趣旨に賛同し、自分が読んだ本をほかの誰かにも読んでほしいと寄贈されたものばかり。本箱ごとにその人の人生観が詰まっているのだ。お手頃サイズの本箱は移動が簡単で、他のカフェや施設、学校への出張も可能。本がまちへ飛び出すことでつながりがさらに広がる、まさにコンセプト通りの仕掛けを考えている。

ワクワクを発信、 老若男女が集う

◎Book Cafe ホンバコ◎



扉を開けると壁沿いに奥まで本がギッシリ。珈琲を飲みながら、ゆったりと落ち着いて本が読める大人の空間

ホンバコの物件は、「第1回RS @鳥取」の題材となった遊休不動産の一つ。店長を務める岡田良寛^{よしひろ}さんは当時受講生として参加し、この物件の事業提案をしたユニットの一人だ。「みんなで本を持ち寄った図書館」「夜も本が読める」といった自身の構想が盛り込まれていただけに思い入れも強く、最終日のプレゼンで「この事業を僕がやります!」と宣言。休学中だった大学院を辞め、オーナーがGOサインを出したこのプランの実現に向けて船出した。

RSの影響もあり、開店直後から老若男女を問わず人の出入りが絶えない。旧喫茶店時代を知る人が「懐かしい」と立ち寄ることもあるという

◎ BookCafe ホンバコ
所 鳥取市末広温泉町154
☎ 0857-50-0573
営業 12:00~23:00
休 日曜日
WEB <http://honbako-tottori.com>
FB <https://www.facebook.com/honbako.tottori>



小さな看板と黄色の底が目印の「ホンバコ」。

う。ブックカフェとしての機能に収まらないのも人気の理由で、2階は普段フリースペースとして開放しながら、読書会やトークイベント、音楽ライブなどのイベントを開催。毎月末には本にまつわるテーマでインターネットラジオの公開収録も。

「2階はRSのときから、1階とは違うかたちで空間をうまく使いたいねと議論していたんです」と岡田さん。描いていたビジョンが少しずつ実現していることに手応えを感じているようだ。

今後は寄贈本や手づくり雑貨などの販売も構想しているとか。どんどん成長するホンバコのワクワク感到に、誰もが惹きつけられている。

屋根の風見鶏がシンボル、モダンな造りの旧俣野小学校。晴れると校舎のバックに大山が顔をのぞかせ、県外からも多くの人々が立ち寄り、人気の撮影スポットとなっている



「地域に根付いた小学校。みなさんの意見を参考に活用策をじっくり練りたい」と古海さん

こう ふうまの
江府町俣野地区にある俣野小学校は、2009年に江府小学校に統合され廃校となった。屋根の上の時計もいつの間にか動かなくなり、学校は静けさに包まれた。

5年後、学校の利活用に心を砕く若者たちが現れた。江府町初の特定非営利活動(NPO)法人「奥大山倶楽部」のメンバーだ。同団体は、14年4月に江府町の地域おこし協力隊としてやって来た若者らを中心に、地域振興や移住定住、住民の健康づくりといった活動を行っている。

事務局長の古海修祐さんは、「旧俣野小学校のことは、赴任当初から気になっていた。レトロモダンな造りで1994年建築とまだ新しい。なんとか活用方法を考えたい」と小学校の活用計画案を打ち出し、大阪で行われたビジネスプランコンペに参加した。ところが1次、2次と審査を通るたび、住民感情を考慮に入れないアドバイスを受ける。困惑。「何か違う」と感じて途中辞退した。

「小学校は地域のシンボル。住民は校庭の花壇に花を植え、草刈りをするなど、今でも大切にしている。だからこそ利活用の問題は、住民と話し合いながら一緒に進めていかなければ」。



● NPO法人奥大山倶楽部
〒日野郡江府町江尾2067-4
☎ 0859-72-3122(平日8時30分～17時15分)

廃校の小学校、利活用へ始動

【NPO法人奥大山倶楽部】



そこで15年5月下旬に住民アンケートを実施。結果は、宿泊・福祉施設という意見が多数を占めたが、驚いたのは自由記述欄の記入が多かったこと。「そこには自転車ツーリング専用の宿泊施設、農家レストラン、農作物・特産品の生産施設など、さまざまなアイデアが書かれていて。関心の高さを感じました」。

同年9月にはアンケート結果の報告も兼ねて「俣野小学校・時を動かす会」を開催。参加者は廃校活用経験者の基調講演を熱心に聞き、校内散策では「こんなに綺麗だったんだ」「もったいないな」という声が上がっていた。

「町外からでしたが、俣野小学校の元職員の方も参加してくれました。最近、俣野地区出身という若者との出会いもあり、そういうつながりから少しずつ活動を広げていければ」。

学校の時計の針が再び動きだす日は、そう遠くないかもしれない。

旧俣野小学校



ツチンを置いて客とスタッフの距離が近くなるようにしたのは2人のこだわりだ。

「席数を欲張らず、大人数で囲めるテーブル、窓側のカウンター、奥の小テーブルと、いろんな状況を楽しめるようにしました」と三宅さん。苦勞もあったが、設計から携われたことで、思いの丈を込めたリノベーションができたという。

「旅のつなぎ役になるのがYの目標。計画なく恐る恐るやって来て、『これからどこに行けばいいの?』と尋ねてほしい。予定調和ではない旅のストーリーが、そこから始まるから」。そう言って2人は微笑んだ。

Yのバブ。左のキッチン奥には小テーブル席もあり。写真右下は2階のドミトリー。木の香りが心地よく、ひとりずつのスペースもゆったりとした広さ



旅のつなぎ役のゲストハウスに



岡山で出会い、ゲストハウスの運営地を求めて一緒に鳥取にやってきた三宅さん(写真左)と蛇谷さん(写真上)

夕暮れ時、店内に灯る優しい光に誘われるように旅行かばんを抱えた人がやって来る。今宵一晩、ここ「Y」で過ごす旅人たちは。1階はバブ、2階がホステルになっており、旅好きの若者たちが国内のみならず、遠く海外からも訪れる。

うなゲストハウスをつくりたいって思ってたんです。そう話すのは、Yを営む合同会社うなかぶL.L.Cの三宅航太郎さんと蛇谷さんだ。印刷物の企画デザイン、アートプロジェクトのマネジメント業などをこなしながら、ゲスト



ハウスの運営にも力を注ぐ。2人は2010年の瀬戸内国際芸術祭のとき岡山で期間限定のゲストハウスを営んでその面白さを知り、「どこか他の地でもやりたい」と土地柄を好んで鳥取へやって来た。

● Y Pub&Hostel
〒鳥取市今町2丁目201 トウフビル1F・2F
☎ 0857-30-7553
● Pub=営業時間:7時～10時、18時～23時(LO)
Hostel=チェックイン17時～23時
チェックアウト10時
● 料 夏季1泊2800円 冬季1泊3100円
● 休 PUB=定休日:水曜日
※宿泊者は定休日を問わず利用可能
Hostel=定休日:なし
● 〆 http://www.y-tottori.com
● 〆 https://www.facebook.com/Y.Pub.Hostel



※ドミトリー=相部屋を前提とした部屋。

地域にさわやかで心地よい風

2013年10月、だいせんしょうおうさか大山町逢坂地区に古民家を再生した「コミュニティ・スペースまぶや」が誕生した。元々は「馬淵医院」まぶちという病院兼邸宅で、1994年に閉院して以来20年以上空き家になっていた。

しかし大山町で行われるアーティスト・イン・レジデンス（以下…AIR）「大山アニメーションプロジェクト」でのアーティストの滞在拠点にしたいとの話をきっかけに、今度は地域の交流施設として、再びその扉を開いた。

話はその1年前にさかのぼる。アーティストの山下志穂さんはAIRの拠点探しに奔走しており、「築き会」に相談を持ちかけた。築き会と

は、宮大工の北村裕寿さん、漁師の中村隆行さん、理学療法士の大廻慎司さんの3人が、大山町の資源を生かして何か楽しいことをしたいと立ち上げた団体。大下さんの話を受けて北村さんは、仕事柄以前から気になっていた馬淵邸を提案した。

風格ある立派な古民家だけに「譲り受けるのは無理なのでは」という不安もあったが、大山町のバックアップも受け、持ち主と交渉を度々繰り返した結果、「地域の方に有効に使っていただけるのなら」と土地と邸宅を町に寄贈してくれたのだ。

それからは急ピッチでリノベーション。荷物の片付け、庭の草刈り、100枚以上ある障子の張り替えに

始まり、すべての電気

配線、雨どい、畳の交換、水回りの改修まで短期間で作業。「大変すぎて2度とやりたくないけど、地域の方を巻き込んでやったことで一

体感が生まれた」と、中村さんは笑いながら当時を振り返る。「建物の傷みがそれほどなかったのは不幸中の幸い。カフェに一新した台所以外は、ほぼ当時のまま」と北村さん。

緻密な細工の格子戸、美しい欄間、透かし彫りが施された引き戸など、現在では、ほとんど見られない細やかな技が随所に見られるという。



「随所に良い材料が使っており、そのまま残した部分もあります」と北村さん



大下さんは「少しめげそうになった日々も今はいい思い出。心身ともに熱い夏でしたね」



「予想以上に片付けが大変だった。でもみんなでやり遂げた充実感は最高」と中村さん

手間と時間かけ、努力実る

無事完成した「まぶや」を拠点に、AIRは大成。大下さんは胸をなで下ろした。「正直、もう無理かも」と諦めかけたことも。あまりにも大がかりな片付けの大変さにめげたり、オープン直前に「聞いてない！」と住民の方に怒られたりと。

それでも根気強く一軒一軒を訪ね歩き、地域との連携をしっかりとった。その結果、最初は怪訝な態度だった住民もここに集い、交流を楽しみ、笑顔で声をかけてくれるようになったという。「まぶや」で地域住

民との交流会を開くときは「ここをこんなに良くしてくれてありがとう」と言われることも。うれしい限りだ。

現在、「まぶや」の運営は、地区のまちづくり活動を行う「やらいや逢坂」が担っている。「これまでの経緯を語ると築き会が前面に出ることが多いけど、まぶやはやらいや逢坂があつてこそ」と、感謝を込める。

イベントや展示スペースとしての利用も活発で、作品展示やものづくり教室など、さまざまな企画

でいつも賑やかだ。「まぶカフェ」は金・月曜日にオープン、毎週木曜日は「1日店長の日」としてカフェスペースが貸し出されており、男ランチの日があったり、子育てママが作るヘルシーランチの日があったりと、バラエティーに富んでいて面白い。毎月第4木曜日開催の「缶詰めバー」も人気。

「地域の方が家飲みとは違う雰囲気求めて、お酒を楽しまれているのがすごくいいんです。若い人も集まるし」と大下さん。

また、入口の左手には「大山町移住交流サテライトセンター」を設けた。金・日曜日の13時から、埼玉県からのイターン者である中村さんが移住相談に応じている。「オープンしてからもう80人以上は移住していますよ」というからすごい。

ふと玄関を眺めると、年配の男性が入ってきた。常連のおじいちゃんだ。テーブルを囲んで取材するこちらを見てにつこり挨拶。「まぶや」ができたことで、さわやかで心地よい風が地域に通り抜けている。それを実感した瞬間だった。



元病院だけあって立派な造りの玄関。広い道路沿いなので気軽に入りやすい



2013年10月のオープニングイベント。演奏会や餅つきなど、地域の人たちとともに盛り上がった

©Shiho Oshita

問 コミュニティ・スペース まぶや
所 西伯郡大山町上市29
☎ 080-1946-2614(やらいや逢坂)
🕒 11:00~17:00
📞 火・水曜日
🌐 <http://mabuya.weebly.com>
📱 <https://www.facebook.com/MabuyaDaisen>

ここにこの

Human
Life



株式会社ALE 代表取締役社長

岡島 礼奈

Okajima
Lena

地上に次々と降り注ぐ流れ星を、
好きな時に好きな人と好きな場所で見られたら。
そんな夢を科学の力で叶えようという人がある。
人工流れ星の実現まで、残すところ2年半。
プロジェクトを語るその人の目は輝いていた。

文/日高 むつみ 写真/萱野 雄一

郷土 LOVE の紙芝居師

ゴロ画伯の
絵日記帳



神話残る弓ヶ浜半島



黄泉の国に続く？
ミステリアスな地形

渡れば二度と
戻れない…



▼ゴロ画伯プロフィール▼

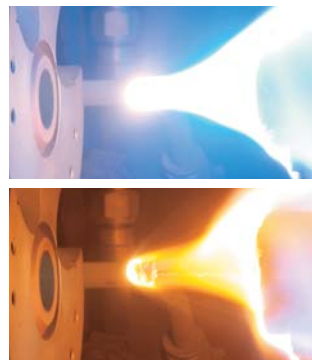
本名・松村宏(まつむらひろし)1962年生まれ。
米子市出身、筑波大卒。朝日新聞社勤務を経て
ニュース漫画家・イラストレーターとして独立。
映画「おくりびと」の絵コンテ担当。現在は爆
笑エンターテインメント、地域おこし、心の病氣予
防などをテーマに、自作自演の紙芝居師として
活動中。夢は「だらざる様」(地域おこしのキャラ
クター)と漫画大仏殿の建立。

なぜここがそうなのか？ワタシは地形にその謎を解く鍵があると思っ
ている。弓ヶ浜半島は、7千年前は存在しなかった。縄文時代に砂州が形
成され始める。古代人になったつもりでちやうどその風景を想像してみよう。
ふたん何も無い海の上に突如として白い道が浮かび上がる。大潮の日
だ。ちやうど太陽が沈んでいく方角にどこまでも延びている。まるであの
世に続く道のよう。もちろん夜に渡るのは危険、潮が満ちたらたちまち
溺れてしまふ。
ところが妖しい光が誘惑するのだ。気がつけば、白い道にそって自分の
影が黒く長い蛇のように伸びている。振り返ると煌々と満月が上ってい
る！そのすぐ横には夜の支配者がそびえ立つ。巨大な漆黒の羽を広げ
て、まるであの世に続く海の道へ追い立てているようなその姿。大神岳※
3)そう、大山だ！
実際にこの道を渡って、二度と帰ってこなかった古代人もいただろう。
弓ヶ浜には夜見という地名が今も残っている。

※1 弓ヶ浜半島＝鳥取県西端部から北西に向かって細長く延びた全長約17㌔、幅約4㌔の日本有数の砂州。

※2 イザナギとイザナミ＝日本神話で国と神をつくったとされる男女の神。※3 大神岳＝神話の世界での大山の呼び名。

夜空 彩る流れ星、自在に



物質が燃える時には特有の色を発しながら燃える。原料の比率を変えることで、多彩なカラーの流れ星が作れるという
(写真提供:株式会社ALE)

原点は故郷の星空、満を持して起業

岡島さんは幼い頃から星を見るのが好きだった。「宇宙って広いなあとか、あの星はどれだけ遠いのかって考えるのが好きで」

星座の物語よりも宇宙の不思議に心惹かれた。将来の目標は宇宙物理学の研究者。そのために環境

夢の始まりは2002年の夏。学生時代に鳥取砂丘で見たペルセウス座流星群だった。灯りが一つもない中、砂の上に寝転んで夜空を見上げると流れ星が次々と降ってくる。思わず歓声を上げた。

それまでも何度となく流星群を見てきたはずなのに、これほど感動したのは初めてだった。「観測じゃなく、純粹にエンターテインメントとして楽しかった。その時に思ったんです。自分たちの手で、流れ星を作れたら」と

あれから14年。岡島さんが描いた夢は、仲間や支援者を得て、現実のものになるうとしている。

の整った東京大学を目指した。「運よく合格して難関の天文学を専攻できたけど、周囲は優秀な人ばかり。それに研究だけに人生のすべてを捧げることはできないなあ」と

そこで進路を変更。博士課程修了後は外資系の投資銀行、ゴールドマン・サックスに就職した。思い切った方向転換だが、そこには



流れ星を空から降らせた際のイメージ
(写真提供:株式会社ALE)



流れ星の素材となる「粒」のイメージ模型。これを搭載した人工衛星を宇宙に放つ

研究者を目指した岡島さんならではの理由があった。

「天文学ってお金がかかるんです。莫大な資金を投入して、ようやく新発見ができる世界」

しかし日本では、研究費用の多くを公的資金に頼っているため、予算の削減で研究を断念することもしょくない。

「ならば別のところから研究資金を調達できないか?と。アメリカでは寄付金やファンドが多く、研究を支えています。だからサイエンスファンドを立ち上げて、社会と科学をつなぐ一助になればいいかと考えました」

そのノウハウを得るため、投資を手掛ける金融機関のメンバーと

して、一歩を踏み出した。しかし2009年、リーマンショックのあおりを受け、短期間でその会社を飛び出すことになってしまった。

「これは運命かな?と感じた。鳥取砂丘で流星群を見たあの日からずっと、いつか人工流れ星を作りたいと思っていたから。行動を起こすなら今だ!と」

そこで大学の研究室とともに研究をスタート。2011年には、人工流れ星の事業化に向けて株式会社ALE^{ニール}を立ち上げた。

「人工流れ星は理論的には可能なことだから、他にも考える人はいるかもしれない。こんなに面白いこと、絶対、人に先を越されたくなかったから。負けず嫌いなんですよね」



岡島さんの小学生の頃の愛読書「アトム博士の相対性理論」。人間がつくった「物語」よりは、「普遍」に興味があったという

街にワクワク感! 異分野が結集、現実に

2014年、発案当初悩んでいた明るさの課題をクリアして研究は大きく前進した。それを機に岡島さんは事業内容を広く社会に向けて発信。賛同する個人や企業を得て、都市の夜空を人工流れ星で彩るスカイキャンバスプロジェクト(※)が発足した。「デザイナーやマーケティングをはじめ、さまざまな異分野の方がメンバーに加わってくれたおかげ。彼らの発想なくしてはこのプロジェクトは生まれてなかったかも」

おかじま・れな

鳥取市生まれ。鳥取西高校、東京大学理学部天文学科、同大学院理学系研究科天文学専攻博士課程修了。修了後はゴールドマン・サックス勤務を経て、2011年に株式会社ALEを設立した。

プロジェクトでは、アートやライブ、イベントとのコラボも想定している。流れ星は花火の400倍にもなる広範囲で見ることができ、例えば東京都内で流すと一度に3000万人が楽しめるという。当面の目標は「2018年冬のスカイキャンバストウキョウ」だ。

「街がワクワク感でざわめく。そんな体験を共有できたらと。個人的には、まず鳥取で実現したい。そして東京のみならず、いずれは世界中の都市でも実現できれば」と岡島さん。世界を見つ、原点の故郷への想いも忘れない。

夜空を彩る色とりどりの流れ星…。「突拍子もない」とも言われたその夢は、多くの人を惹きつけて現実に。そして新たな舞台を開き、未来へと輝きを放つ。

※スカイキャンバスプロジェクト=空をキャンバスに見立て、夜空を人工流れ星で演出するプロジェクト。詳細は<http://www.star-ale.com/project/canvas.html>

2代目は「外だと店の名前をなかなか覚えてもらえない」と、店内に暖簾を掲げた。
逆転の発想が話題となり、評判があがったという



古今時代屋

文／稲嶋 正彦
写真／田中 良子

「獨創性」を評価するのは難しい。周囲に理解されるかどうかを基準にするのは違う気がするし、誰も真似できない、でもない。長く記憶に残ったものを「獨創性」が高かった、とするのだろうか。

暖簾をくぐり、木製引き戸をカラカラと開ける。店内には、先代が作った大きな棚が客席に張り出し、その先に小上がりまである。一瞬、すべての席が着物姿の客で埋まっている画が見えたような気がした。

1920(大正9)年創業当時の建物が今も残る林そば屋。店構えだけでなく、味と製法もその頃のままでの、よなご米子そばと呼ばれる黒いつゆのそばを守り続けているのは、3代目となる林俊男さん。

濃口醤油のまったりした味に負けないよ

真似出来ぬ味、守り引き継ぐ

う、鰹節ではなく鯖節を使って、より風味の強いだしを取っている。それが、毎朝手打ちするというやや太めの麺とよく合う。見た目とは違い、口当たりは意外とすっきり。そばをすすると、続けてつゆを飲みたくなる。常連客が多いというのもうなずける癖になる味だ。

Uターンで店を継いだ俊男さんは、「母は、私の代で終わりに言っていたが、お客さんが、やめるなどいつてくれたので」と振り返る。最近では、ネットで見つけたという初めての客も増えたといい、「そういう人には緊張しますね」と笑う。

米子ではここしかない味を100年近く守り続ける、というのは、「獨創性」を「独自性」へと引き継いだ例かもしれない。



店の佇まいは長年変わらないが、俊男さんが受け継いでから外にも暖簾をかけた



一番人気の白イカのかき揚げを乗せたそば。それ自当ての常連さんも多く、昼過ぎには売り切れる日も

名物は上にのせる天ぷら。エビや野菜ではなく、白イカを細かく切ってかき揚げにしたもの。15年ほど前からは、ゲソ天もメニューに加えた。柔らかな食感で噛み切りやすく、さらには油がつゆに染み出し、一層のコクを加える。イカはもちろん、なんぶ南部町産のそば粉など、地元産を使い続けているのも嬉しい。



【林そば屋】
所 米子市東倉吉町45
営 11時～18時30分
☎ 0859-22-5337 休 日曜、祝日

林そば屋 米子市



三角屋根が目印の三朝バイオリン美術館。
山沿いに位置するため、春には新緑、秋には紅葉も楽しめる抜群の環境だ



細かく分かれているバイオリンの製作工程を紹介する1階の展示室

地元の音楽文化、 発展させたい



温泉地と弦楽器。一見、何のつながりもなさそうな両者を結び付けたのは、「鳥取に弦楽文化を広げたい」と手を結んだ職人と演奏者の強い思いだった。

合掌造りを模したこの建物は、かつてはよくある町の美術館だったが、今では弦楽器に特化した国内随一の展示施設「三朝バイオリン美術館」として生まれ変わり、温泉街にさわやかなヨーロッパ調の風を吹き込む。

旅館が立ち並ぶ三朝川沿いを進み、キュリー広場（※1）を左に曲がってなだらかな坂を少し上ると、竹林の緑を背に、青空にぽっかりと浮かんだような大きな三角屋根が目に見え込んでくる。

「数値的に計った訳ではありませんが、ここの響きはとてもいいです」と2階の音楽ホールを案内してくれたのは、ビオラ演奏者の生原幸太さん。
生原さんは北栄町出身で、5歳からバイオリンを始めた。早稲田大学在学中にビオラの魅力にはまり、音楽の道に進むことを決意して同大学を中退。愛知県立芸術大学音楽学部を卒業後、6年ほど東京を拠点にしていたが、2011年に鳥取県へ戻り、県内を中心に演奏活動を行っていた。
そんな生原さんがバイオリン美術館に携わるようになったのは、同じように技術を習得してふるさとに帰ってきたバイオリン職人、岡野壮人さんとの出会いがきっかけだった。
岡野さんは倉吉市出身で、18歳の時に無量塔蔵六さん（※2）主宰の「東京ヴァイオリン製作学校」に入学。東京の弦楽器工房に勤め、フランスで短期研修を受けるなどしてバイオリン製作と修復の技術を磨いた。09年に倉吉市に戻り、自宅にアトリエを開いていた。

※1 キュリー広場＝三朝温泉はラジウムを多く含むため、ラジウムの発見者であるキュリー夫人を讃え、温泉街の一角に胸像が建立されている。

※2 無量塔蔵六＝日本におけるバイオリン製作の先駆者。

弦楽器の調べで 潤うまちへ

聖地目指す「三朝バイオリン美術館」



優雅で豊かな音色。弾く者の感情が弦を通して音となり、聴衆の心を魅了する。三朝温泉の片隅でひっそりと佇んでいた美術館が、バイオリンの美しい調べを響かせて息を吹き返した。その旋律は温泉街に波及し、心身の潤いをもたらしている。「三朝町をバイオリンの聖地に」。高みを目指す人々の取り組みを追った。

文／井田 裕子 写真／田中 良子 イラスト／高木 和美

生の音に触れる機会を提供

初心者でも馴染みやすい楽曲を演奏するランチタイムコンサート。県外からも足を運ぶ常連客が多い。



「これまでにないスタイルで、三朝から音楽文化を築きたい」と意欲的な岡野さん



19にもなるバイオリンのパーツ。分解されたものを見られる機会は減多になく興味をそそられる



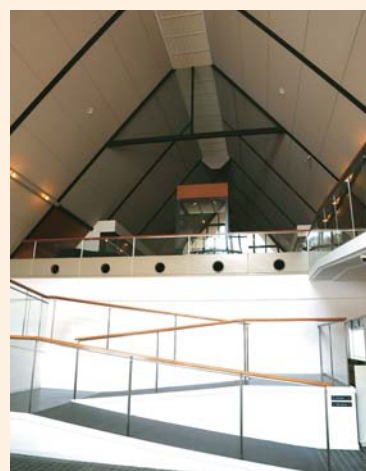
バイオリンを作る道具がズラリ。パーツごとに使う道具が違うため、何十種類にもなる(1階展示室)

プロ職人養成と名器の販売も

互いに鳥取県出身で弦楽器に関わる者として存在は知っていたが、直接会ったことはなかったという2人。生原さんが帰郷後に岡野さんの工房を訪ね、地元の音楽文化について語り合うようになった。

そして、音楽文化発展のために「自分たちにもできることがあるはず」との思いが一致し企画したのが、12年に同館の前身「みささ美術館」で開いた「弦展」だった。

バイオリン作品の展示と演奏会のジョイントという斬新なスタイルで



音楽ホールとして作った建物ではないが、三角屋根の構造は予想以上に音の反響が良いため、演奏する音楽家や聴衆に好評だ

「小さな頃から良質の音に触れることは大切」と、親子連れでも可能な企画も展開する生原さん



行われた「弦展」は、「これまでにない面白いコンセプト」と話題を呼んだ。この時に意外な収穫だったのが、2階ホールの音響の良さだった。

エントランスから続く三角屋根の構造や、壁面のガラスショーケースへの音の反響など、演奏に適した条件が偶然に重なり、その場所は音楽を奏でるのに最高のステージとなった。また、大きな窓からさ

す木漏れ日や高い天井、たくさんさんの美しいバイオリンに囲まれた空間で聴く音楽は、格別に来場者の心を酔わせ、震わせた。

手応えを得た2人は、町が指定管理制度を導入すると、岡野さんが代表となって「みささ弦楽プロジェクト」を立ち上げ、13年から同館の運営を開始。生原さんは、ビオラの演奏からコンサート企画まで、演奏に関わる全てを仕切る音楽監督に就いた。

館内の展示は、弦楽器の魅力を伝える内容に一新。1階の展示室では、バイオリンの製作工程を細かく紹介し、500年近く前にはほぼ完成されていたという、そのフォルムの美しさと造りの精巧さをつぶさに見ることができ

2階の音楽ホールは約80人が収容可能で、毎月第1、3水曜日のランチタイムコンサートのほか、県内外の演奏家を迎えた週末の特別コンサートなどを企画し、気軽に生の演奏に触れる機会を提供。ランチタイムコンサートは0歳から入場可能の企画もあり、赤ちゃんや幼児を連れのお母さんたちに人気だ。ここで弦楽器の音に魅せられて何度も足を運ぶ人も少なくないという。

また、隣接する施設に「鳥取ヴァイオリン製作学校」を設け、プロの職人の育成も行う。鳥根県安来市出身で、高校卒業後の昨年4月から修行に励む若菜英一さんは「バイオリンは後世に受け継いで演奏されるもの。弾いて楽しいと思ってもらえる楽器を作りたい」と真剣な眼差しで木に向かう。このほか、春には全国の製作者を対象に世界的に有名な製作者を招き、夏には学生対象のサマーカーンプと年2回のワークショップも開いている。

楽器のオーダー製作、調整、修理なども請け負うほか、欧米などの海外にもルートを持っているため、名

器の販売も可能だ。今年4月には楽器の販売、手配などを行う松江支店を開設。オリジナルの鳥取県産のバイオリンも製作中で、演奏と製作を2本柱にしっかりと運営をこなす。

生原さんは「演奏家のネットワークを広げて、子どもから大人まで多くの方に演奏を聞いてもらう機会を作りたい。ここを拠点に外にも出掛けて、県内全域に弦楽器の音を浸透させたい」と、今日も館内いっぱいに美しいビオラの音色を響かせる。

岡野さんも「利益をきちんと上げていかなければ続かない」と、職人として自身の作品に向けていた情熱を、今は美術館の経営に注ぐ。その成果は着実に表れており、毎年売り上げ目標を達成、規模も大きくなっている。

「人間の感性を育てるのに音楽は絶対必要」と説く岡野さん。「私たち自身が企業としていかに発展していくか。それが鳥取県の弦楽文化の発展につながると信じている」。

職人と演奏者の思いが共鳴し、三朝から新たな音楽文化が花開こうとしている。

三朝バイオリン美術館
 所 東伯郡三朝町三朝199-1
 ☎ 0858-43-3111
 営 10時から18時
 休 火曜
 〻 www.misasavm.com

バイオリンが出来るまで

美しい音色で世代を超えた人々を魅了するバイオリン。その構造は、年月を経ても修理、修復が可能のように、さまざまなパーツが全て膠(※)で接着されている。三朝バイオリン美術館では、製作過程と製作や修理に使用する道具などが展示されており、楽器の仕組みを内側から詳しく見られる。演奏家でも、なかなかお目にかかれないバイオリンの成り立ち、製作手順を紹介する。

※ 膠＝獣類の骨・皮・腸などを水で煮た液を乾かし固めたもの。主成分はゼラチンで接着剤などに使う。

Start →

1

フォルム製作

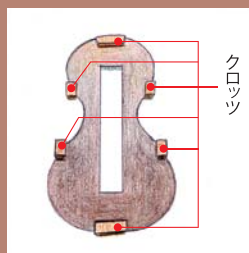
合板に型を当ててガイドを描き、糸ノコで切り出してノミやヤスリで仕上げる。



2

クロツツ接着

クロツツ材(松)を膠で接着し、フォルムの延長線になるようノミやヤスリで仕上げる。



3

横板1周

横板材(楓)をビーゲンアイゼン(曲げ用アイロン)でフォルムに合わせて曲げ、膠でクロツツに接着する。



4

ライフエン接着

ライフエン材(松)をビーゲンアイゼンで曲げ、横板内側の裏板側に接着。横板の補強材となる。



5

裏板接ぎ合わせ・削り出し

2枚の裏板材(楓)をカンナで隙間なく削り合わせ膠で接着する。その後糸ノコで切り出してからノミでアーチを削り出す。



6

パフリング

ナイフで切り込んでノミで彫り込み、1周したら膠を流し込んでパフリング材を埋め込む。



Goal

18

ホワイトバイオリン完成

指板を取り外して保護用のプレートを接着し、「ホワイトバイオリン」が完成。この後、ニス塗りへ。



17

持ち手仕上げ

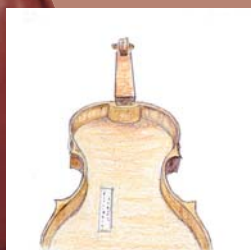
指板を仮付けし、持ち手をナイフやヤスリで成形する。



16

ネック入れ

ネックの角度、向き、組んだ時の強度などすべてを同時に確認しながら上部クロツツに接着する。



15

指板製作

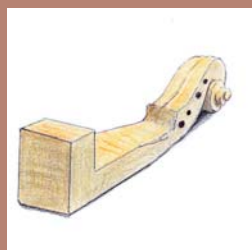
指板材(黒檀)の表側をカンナで削り出す。内側は軽量化のために彫りを入れる。



14

背中の彫り～面取り

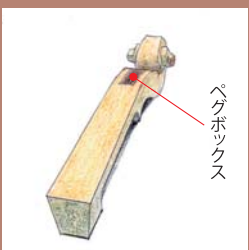
ノミやナイフで背中を彫る。彫り終わったら面取りを行い、スクロール部分は完成。



13

ペグボックス

4本のペグ(糸巻き)を収めるペグボックスをノミで彫る。左右の壁がそれぞれ5mmの厚さになるようにする。



12

ネック製材・スクロール切出し

ネック材(楓)をカンナで調整し、型を当ててガイドを描き糸ノコで切り出す。スクロールは1段ずつノコギリ、ノミで細かく仕上げを繰り返す。



11

胴体完成

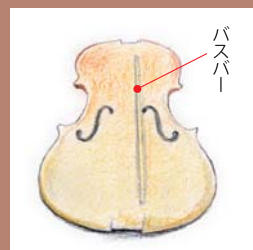
表板側もライフエンで補強しクロツツを削る。ラベルを貼り表板を接着し、表板裏板共にエッジを丸めたら胴体が完成。



10

バスバー削り合わせ・成形

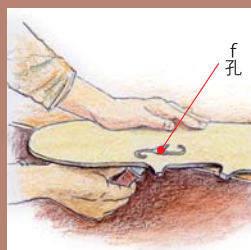
バスバー材(松)を内彫りに合わせカンナで削り接着する。その後ならかなカーブに成形していく。



9

f孔切り抜き

表側に型を当ててf孔を描き、糸ノコで切り抜いた後ナイフで仕上げる。



●●特徴●●

4本の弦を弓や指などで振動させることによって音を出す。重量は300～600gと非常に軽い。周波数が人間の声に近い音のため、人の耳に馴染みやすく、長時間聴いても飽きない。音域は4オクターブ以上と広く、音の強弱が自在に行え、力強さと繊細さを兼ね備えている。

●●起源●●

「狩猟や戦争に使われていた弓からヒントを得た」など諸説あり、16世紀初頭の北イタリアで現在とほぼ同じ形の楽器が誕生した。最初は主に民衆の楽器として親しまれていたが、その優雅な音色が認められ、宮廷のオーケストラに多く取り入れられていく。18世紀後半になり、多くの作曲家が、バイオリンを中心的な役割に据えて主要なメロディーを奏でる曲を作曲したことで、現在の地位が確立されていった。

●●値段●●

初心者用に1万円台からあるが、アマチュアの多くは10万～数十万円クラスを使い、プロの演奏者は100万～1千万円を超える楽器を持っている。超一流の演奏家が使う「ストラディバリウス」や「ガルネリ」などの名器の場合、数千万円から億単位の時価で取引引きされるという。弓も楽器同様に非常に重要な要素で、別売りで本体の3分の1くらいの値段のものが使われる。

●●4種類の弦楽器●●

バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスの4つの楽器は形と構造がほぼ同じで、まとめてバイオリン属と呼ばれる。音域は前述の順に低くなる。ビオラは、バイオリンより全体的に大きく厚みが増している。柔らかく温かい音色が魅力。チェロは、ビオラよりさらに大きく、より低い音を奏で、床に立てて演奏する。コントラバスは、低音で余韻が長く、豊かな響きが特徴。吹奏楽、ジャズ、カントリーなどでは、ダブルベース、ウッドベース、ストリングベースなど、さまざまな名称で呼ばれている。

鳥取の
うま味

カラダにやさしく、
五感揺さぶる

四季折々の旬ものを生かした「季節の彩り弁当」は1500円。地獲れ魚の南蛮漬け、揚げ出し豆腐生姜あんかけ、2色細巻き、青菜のおひたし、だし巻き玉子、カラフル野菜柚子味噌添え、白ネギの牛肉包み焼き（※月替わり）



取材協力 さとに千両
 所 鳥取市仁里312-1
 ☎ 0857-50-1611
 営 11時30分～14時30分、18時～21時30分
 ※ディナーは要予約
 休 火曜（祝祭日は営業）
 WEB <http://satoni.jp/senryou.html>



■■ 医食同源料理 ■■

「医食同源」。「医療の根底にあるのは食。食を通し健康が保たれるのです」と、社長の太田義教さん。そのコンセプトを料理に反映した古民家レストランが「さとに千両」だ。

田園地帯に佇む一軒家を改装。築約100年の歴史に刻まれた重厚な趣と年代物の調度品が、心落ち着く空間を演出してくれる。

四季折々の恵みを生かし、地産地消の料理を提供。特に太田さん自らが生産にも関わる低グルテン米（※）は、弾力性があり、甘味が香る。「もともと、腎臓病患者のために開発された米ですが、健康な人にも提供したいという思いでレストランを開業したんです」

白米と比べると食味が劣るため、試行錯誤を重ね、低グルテン米特有の「味わい」を生み出した。すでに系列病院で提供されていた医療給食をもとに、さらなる研鑽を重ね、旬を生かした五感を揺さぶる料理が完成した。

医療と食が紡ぐ医食同源の真髄を心ゆくまで堪能できる。

※低グルテン米はタンパク質の摂取制限が必要な人の腎臓への負担を軽減させるために改良された米。米に含まれるタンパク質のうち、身体に吸収しやすい消化性タンパク質（グルテン）の含量が低い。

文／中西美穂 写真／佐野明美

米こそが原点、温故知新を大切に

ここには秀峰大山のよき水があり、『山田錦』というよき米がある。よき水とよき米がよき地酒を造る。創業140年、『八潮』の商標で知られる中井酒造である。

近年、「米こそが酒造りの原点」と、6代目の中井丈弘さんを中心に米と真剣に向き合っている。先代、先々代の遺志でもある。2001年、時代に先がけ無農薬の有機農法による山田錦の栽培に踏み切る。全国的に見ても画期的だが、実は戦前まで無農薬での栽培は常識。その上に現代の技術を加えたのだ。つまり「温故知新」という教訓が酒造りに生かされたということになる。

出来上がった純米酒は、鳥取県初の有機農産物加工酒類第1号の認定を受けた。『八潮 有機純米吟醸 黒門』である。甘い香りに反した厚みのある辛口が特徴だ。そして、純米大吟醸『丈』。6代目自らの名に託し、濃麗、辛口に挑む。ぬる燗最適、鍋物や酢の物に合う。願わくば、神々をも酔わせた。

かくて——地酒は地域を支え、地域は地酒を育てる。よきサイクルが生じる。世界を舞台にした市場もしっかりと見えてくる。

中井酒造(倉吉市)



とっとり
酒蔵めぐり



【情報メモ】

山田錦は最高の酒造好適米として知られており、中井酒造は自家水田で栽培している。

また「八潮」の名前の由来は、近くの小鴨神社の祝詞「8つの潮の交わる入潮路」に由来。「8つの潮が交わるように単純でない味わい深い酒」と、「人・物・金が交わり活気ある会社」にとの思いが込められたという。

☎ 中井酒造株式会社
 所 倉吉市中河原555
 ☎ 0858-28-0821
 FAX 0858-28-0898



創業当時から長年にわたって使われていた長い煙突が目印の中井酒造

文／須崎 俊雄 イラスト／谷繁 淳子

【問】
公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構
所 鳥取市扇町7
鳥取フコク生命駅前ビル1階
☎ 0857-24-4740
WEB <http://furusato.tori-info.co.jp/>

▼IJUターン就職に関する相談
☎ 0120-307-238
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
▼移住に関する相談
○鳥取県移住定住サポートセンター
☎ 0120-841-558
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
○とっとり移住定住ポータルサイト
WEB <http://furusato.tori-info.co.jp/iju>

長逗留の旅人の目線と 生かした魅力発信



【PROFILE】
◎家族構成／1人暮らし
◎移住前の住まい／東京都練馬区
◎移住時期／2013年5月
◎現在の仕事／NPO法人職員、ライダーハウス運営



※長逗留＝長い間滞在すること



ライダーハウスに宿泊したあと、日南町を観光ツーリングしたライダーたち 写真提供＝古民家「かつみや」(日南町)

池田さんの愛車400ccバイク。
看板よりも確実な“目印”の役割
を果たす



文／島 香子
写真／蒼野 雄一

にちなんちよう
◎ライダーハウス運営(日南町)◎

ほ た か
池田 穂高さん
東京都練馬区出身

広島県との県境、
にちなんちようにいや
日南町新屋の国道沿いに、
『ライダーハウス日南』がある。

2014年5月の開設以来、
初年度は30人、次年度は80人と
利用者はうなぎ登り。

オートバイや自転車で訪れる旅人に
無償の宿を提供するのは、
東京都から1ターンして4年目の池田穂高さんだ。

空き家バンクで見つけた 築60年の古民家活用

JR伯備線生山駅前はくび しやうやまから、車でさ
らに進むこと約25分。日南町多里
新屋地区は、1890年代後半から
クロム鉱石の採掘で栄え、1996
年に閉山した若松鉱山わかまつのお膝元とし
て歴史を刻むエリアだ。『ライダー
ハウス日南』は、築60年以上の木造平
屋建て住宅を生かし、運営者の池田
穂高さんの住まいも兼ねている。

移住した当初は、勤務先の紹介で
生山駅近くの戸建住宅を借りていた
が、ライダーハウス開設を目指し、
町内の空き家バンクを活用して物件
の情報を収集。主要道路に面した立
地と駐車場保有、部屋数が多いこと
などを条件に探した結果、巡り合え
たのが今の場所だ。

「米子市や大山よなご だいせんのほか、新見IC、
庄原ICなど、どこに向かっても1
時間ほどの距離にあり、ツーリング
の中継地点として適しています。ま
た、この辺りの集落は、昔から鉱山
で人の出入りが活発だったせいか、
余所者よそものにやさしい。近所のトマト農
家のおばちゃんおばちゃんが、ライダーと道端
でおしゃべりするのも日常的風景
で、ありがたいですね」と、池田さ
んは目を細める。

1ターンよりライトな 軽ターンがオススメ

25歳でバイク免許を取得した池田
さんは、職場の長期休暇中にツーリ
ングで訪れた北海道で、初めてライ
ダーハウスの存在を知る。木材を扱
う仕事と田舎暮らしに関心が強まっ
た時、「いつかは…」と願っていた
ライダーハウス運営と田舎暮らしの
夢。2013年、日南町を訪れた事で
カタチになった。

「僕の場合は、1ターンよりも『長
逗留(※)』で居座った旅人」の認識で
す。でも旅人の目線だからこそ、日

南町の魅力をより引き出し、PRが
可能だと感じています。長い人生の
2、3年間を田舎で暮してみるとい
うようなライトな移住、軽ターン
者が増えれば、受け入れる地域も
より活性化するのでは？と思います
ね」と池田さん。

現在、ライダーハウスの運営経費
はすべて自費で賄っているが、政府
の民泊規制緩和方針を受け、今年は
民泊資格を取得するつもりだ。

「民泊が機能し始めたら、田舎暮
らしに特化した2号宿を開業した
い」池田さんの長逗留は、まだま
だ続く。



山あいの自然豊かな環境に位置する
「ライダーハウス日南」



■ライダーハウス日南■

所 日野郡日南町新屋437-1
☎ 080-9798-2170
バイク仲間を善意で泊める形態のため、
宿泊は無料。食事と寝袋は利用者が持参。
入浴希望者は、4km先の道後山温泉(広島県)を利用。
ブログ <http://ameblo.jp/nichinan-rh/>

ここにこの人「奥平謙二さん」の記事を興味深く拝見。同じ高校の出身と知り、国際的に活躍する後輩を誇らしく思いました。これからは「ゴジラ」の映像をより身近に感じると同時に、奥平さんの今後ますますの活躍を期待したいです。

(神奈川県横浜市中区 上原義信)

いやー、驚きました。鳥大のロボット医療の先進性に。手術症例数の多さに。私は広島市に住んでいますが、いざというときには是非、鳥大病院で治療を受けたいと思いました。

(広島県広島市 景山三平)

巻頭特集の鳥取大学医学部附属病院の発想にビックリ。ロボット手術のマニュアルを全国に発信するなんて、すごいですね。「いざ」という時に頼れる病院が身近にあることを心強く思いました。鳥取に住んでいても、このような取り組みを知りなかつたので、今回知ることが出来て「安心」が増えました。

(鳥取県鳥取市 浅井香里)

表紙が素敵で毎回楽しみです。文章も読みやすく親しみを感じており、優れた情報誌だなと思います。人口最少県でさまざまな課題があるにもかかわらず、前向きに工夫して活動しておられる姿勢や、美味しい食べ物の豊富さが好きで、いつも旅先として選んでしまう鳥取です。

(京都府京都市 小畑文子)

表紙を開いたとたん、今にも天へと舞い上がりそうな美しい姿のブロンズ像に目を奪われました。「あーとの森の碧川」かたの顕彰碑です。鳥取市内に建立されて間もないそうですね。次回の帰省時にはぜひ、観に行きたいと思っています。

(京都府京田辺市 岸田二美恵)

色も種類も豊富なグラウンドゴルフのクラブ。競技をする年代は幅広い、スタイリッシュなものも多い



鳥取県湯梨浜町が発祥の

生涯スポーツ「グラウンドゴルフ」。

国内の競技人口は360万人にも及び、海外でも普及が進む。

この競技の専用クラブを生み出したのが、

鳥取市青谷町にある米村木工だ。

ゼロからの開発で現在、国内シェアの5割超を誇る。

グラウンドゴルフクラブ

ゼロから開発、国内シェア5割超

同社がクラブの製造を手掛けるきっかけとなったのは「全く新しい運動用具を作って欲しい」との1本の電話から。1982年、高齢化が進む旧泊村(湯梨浜町)では「健康維持に役立つ新スポーツを」という動きが起こっていた。

当時、高齢者の間で流行していた



近年開発に取り組んでいるけん玉。競技用とは別に、デザインに工夫を施したオブジェは土産用にも最適だ

有限会社 米村木工

代表取締役 米村 安弘
設立/1988年10月
資本金/300万円
事業/木工製品製造
(挽物加工・NC加工・彫刻加工・塗装)
所 鳥取市青谷町吉川102
☎ 0857-85-0805
🌐 <http://www.ncn-t.net/yonemoc-yoshi/>

ゲートボールは、その競技特性から採め事が絶えず、社会問題化(※)していた。そこで新スポーツは、トラブルになりにくいルールを検討、村教育委員会が中心になり研究、開発を進めていた。用具で白羽の矢が立ったのが、木材加工を手掛ける同社だった。

「設計図などなく、まっさらから。とにかく手探りでした」と社長の米村安弘さん。約50人の地域の高齢者に試作品を何度も試してもらい、折れる、凹むなどの不具合は堅度の高い輸入材を使用するなど、試行錯誤を繰り返して改善。また、高齢者でも気軽に買える値段設定とするための工夫も施した。

同時進行で考案されたルールも決まり、新スポーツ「グラウンドゴルフ」が誕生。新たなルールや使い易い道具が評判を呼び、瞬く間に全国に広まった。

普及に伴って販売体制の確立に迫られた同社は翌83年7月、大手スポーツメーカー・アシックスと販売契約



「ものづくりはやはり胸が躍ります」と語る米村さん

を締結。現在、共同開発で年間6万本のクラブを世に送り出している。米村さんは「協力してくれたおじいちゃん、おばあちゃんの喜ぶ顔を見たくて。すごいものを作って、驚かせたい」と思いで夢中だった」と当時を振り返る。

近年はけん玉の製造も手掛け、国内にまだ少ない日本けん玉協会認定のけん玉製造工場を目指し、注力する。競技用のほか、加工技術を生かしたオリジナルデザインも手掛け、オブジェとしても販売する計画だ。「ゼロからのクラブづくりは大変だったが、とにかくワクワクした。けん玉づくりで、またあの時の感覚が蘇っています」と、表情を緩める米村さん。30年の時を経て、ものづくりへの熱い思いは色褪せてはいない。

文/伊賀奈和実 写真/山崎登

当会は1956年、播州方面に就職した鳥取県出身者によって発足しました。一時中断もありましたが1978年11月に再発足、今年で46回目の総会を迎えます。会員相互の懇親を目的として、マイペースに活動しています。

最大行事は、年1回開催する定期総会。鳥取市の童謡・唱歌とおもちゃのミュージアム「わらべ館」から、歌手やピアノ奏者を招いてコンサートを開いたり、民謡や踊りを披露したりして、親睦を深めています。また近年では、食品工場の見学や姫路城での花見会を行うなど、新しい試みにも挑戦しています。

集うたびに、播州と鳥取の方言の違いの面白さや懐しい昔話などに花が咲きます。語り合い、笑い合う、みんなで楽しめる県人会を目指して、これからも活動を続けていきます。



総会では毎年、シンボルののぼり旗をバックに記念撮影

方言飛び交い、昔話に花咲かす

VOL.12 姫路



鳥取県人会リレー紹介



幼い頃の故郷のこと、最近の出来事や楽しみなどを和気あいあいと語り合える場所、機会になればいいなと思います。お気軽にご参加ください。

会長 足立 健

▽姫路鳥取県人会概要

設立/1956年
会員数/139名(2016年3月現在)
会費/無料 ※但し行事の都度、実費精算
入会方法/事務局へ連絡

▽問

姫路鳥取県人会事務局
〒670-0049
兵庫県姫路市元町113-1 元町西ビル202
会長 足立 健
☎ 079-299-3737
📠 079-299-3838

※ゲートボールは5人1組の団体競技。チームのために相手の邪魔をすることが重視される独特のゲーム性によってトラブルが多発した。一方、グラウンドゴルフは個人競技のため、和気あいあいと楽しめる特徴がある。

●110号プレゼント応募用クイズ●

Q バイオリンより少しサイズが大きく、
柔らかな音色が特徴の弦楽器は何？
空欄に文字を入れてください。

109号のクイズの答えは「羅漢果」
「企業紹介」コーナーの記事に正解があり。
答えの間違いが多かったのは「無花果」でした。

読者プレゼント

応募バチ
2016.
6/30
消印有効

■ 応募方法

頁右上のクイズの答え、ご意見、ご感想とともに希望の商品名と記号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、下記までお送りください。ハガキまたはメールで受け付けています。なお、感想が次号に掲載される場合、住所、氏名が明記されることをご了承ください。

■プレゼント応募にはクイズへの回答が必須です。本誌を読み、頁右上のクイズにお答えください。

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
mailaddress: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント
発送以外の目的に使用することはありません。

A



【3名】

八潮 二十世紀梨酒 ピュアリ (300ml×2本セット)

県産の二十世紀梨を丸ごと漬け込んだリキュール酒。梨本来の甘さと、滑らかな口当たりが特徴。「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクターの陶器製ボトルが人気。

問 中井酒造株式会社

☎ 0858-28-0821

B



デスクアロマリーフ (5枚入り) 【10名】

コーヒーの出し殻をリサイクルしたエコロジー製で、好みのエッセンシャルオイルを染みこませて使用する。電気や火を使わずに芳香浴が楽しめる。

問 モルタルマジック株式会社

☎ 0857-82-6660

C



杉のトレイ (5枚入り)

【5名】

杉の木目が美しい、国産杉の間伐材で作ったトレイ。天然の抗菌作用もあり、食器として利用したり小物を飾ったりするのもオススメ。(16.5×23.5cm)

問 鳥取県森林組合連合会

☎ 0857-28-0121

D



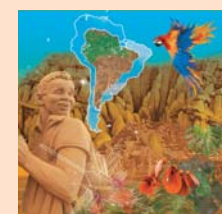
白なめし鹿革の洗顔クロス 【3名】

八頭郡内で駆逐したニホンジカの皮を、伝統技法「白なめし」で加工したオーガニックの洗顔クロス。天然コラーゲン繊維が肌の汚れや古い角質を絡めとる。

問 Dear Deer

☎ 0858-82-0875

E



砂の美術館第9期ペアチケット 【3名】

世界トップクラスの砂像彫刻家の作品を展示する砂の美術館。第9期のテーマは南米。絶景スポットや謎を秘めた古代遺跡などを表現。

※会期は2017年1月3日まで

問 鳥取砂丘砂の美術館

☎ 0857-20-2231

F



トリピーグッズ

【3名】

県のマスコットキャラクター「トリピー」がデザインされたコンパクトミラーとあぶらとり紙のセット。ミラーの蓋には写真も入れられる。※色柄は選択不可

問 鳥取県観光事業団 夢みなとタワー

☎ 0859-47-3800

G



すなば珈琲オリジナル

カップ&ソーサー (2個セット)

【5名】

鳥取のご当地喫茶店「すなば珈琲」のオリジナルロゴが入ったカップ&ソーサー。飲み干すと、カップの底に描かれたラクダが現れる。

問 すなば珈琲本部(海陽亭)

☎ 0857-31-4649

H



西条柿の柿渋石けん (80g)

【5名】

県産の西条柿を使用した全身用石けん。消臭・保湿効果が高いとされる柿タンニン成分を多く含む。汗や皮脂などの気になるニオイ対策に。

問 サンリブ社

☎ 0858-75-0561

Editor's note

□■編集後記■□

「流れ星を見たことがない」と言うのが驚かれる。夜空が美しいこの鳥取県に長年、住んでいるのにだ。見たくないわけじゃない、むしろ切望。「流星群」と耳にする度に、よし!今度こそ!と意を決する。▼だが、障壁が2つ。星が流れるピーク時は夜中〜明け方、加えて寒い季節が多い…ような気が。(※

注:未確認)。とにかく眠さに勝てず、寒さに耐えられない。まあ所詮、言い訳だ(汗)。▼昨夜、こんな根性無しにとって驚きの朗報が舞い込む。え!?星を自在に流すって!? 夢が幻のような、その計画に向けて邁進するリケジョ、が、まさに、光のごとく現れたのだ。(15頁)。▼鳥取砂丘に寝転んで、星降る夜空を眺める…わ〜おっ! 最高に贅沢なひと

とき。想像するだけでワクワクがとまらない。しかも鳥取では夏に企画されるらしい。寒くないっ。しかも当然、真夜中ではない。晴れてノープロブレムだ(笑)▼せっかくだから星に願いを託そう。とはいえ、「宝くじ当選を」なんて身も蓋もない。できれば、浪漫ある願い事、がいい。が、さて、うーん…何にする? コレ大人には案外、難しい宿題かも。 【Hi】

とっとり
Now
鳥取県広報連絡協議会 vol.110
2016 Summer

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社ジェイ・エス・エス
〒680-1131 鳥取市馬場233-1 TEL.0857-37-4120

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

とっとりNOW

検索

http://www.kouhouren.jp/
2016年6月1日発行 定価309円